

アミーゴ 50周年特集号

山口県ブラジル親善協会だより

2024.8 Vol.21
発行：山口県ブラジル親善協会 発行者：橋本憲二
Tel・Fax: 083-927-5137 (事務局 山中)

山口県ブラジル親善協会創立50周年記念 特集号 寄せられた言葉と活動の歴史 (年表)

創立 50 周年記念事業は大成功でした

山口県ブラジル親善協会 会長 橋本憲二



山口県ブラジル親善協会が創立 50 周年を迎え記念事業として昨年はブラジルより 35 名の母県訪問団の歓迎式典を行いました。ブラジル山口県人会にご縁のある入山アキ子ディナーショーへのご招待を中心に県内各地への観光案内等を実施し、来県された皆さんに大変楽しんで頂き我々山口県ブラジル親善協会の会員も努力の甲斐があったと喜んでおります。

また、昨年は米国ハワイ州ホノルルにおいて第 6 回山口県人会世界大会が実施され、ブラジルから伊藤会長の参加は勿論のこと我が山口県ブラジル親善協会も代表が参加致しました。大会を通じ世界に広がる山口県人ネットワークの絆が地域や世代を超えて世界に広がったことを大変嬉しく感じた次第です。

1970 年に始まったブラジルからの県費留学生・研修員の受け入れも既に 130 名を超えました。過去県内各地で研修を終えた若者がブラジルに帰国して我が山口県との繋がりをより強いものにしています。私も 2011 年 6 月より山口県ブラジル親善協会々長をお引き受けして既に十数年が経過しました。その間楽しいこと、困難なこと、色々な事がありましたが近年は体力的に段々無理が利かなくなってきました。しかし毎年受け入れる研修員の皆さんの笑顔とブラジルに於ける山口県出身者の皆さんとの絆を考えると今までやってきて良かったと自画自賛する昨今です。ブラジル山口県人会創立 100 周年があと数年後に控えていますがそれまでは元気に頑張ってお桑ぽウロに於ける交流を図ろうと思っております。

山口県ブラジル親善協会の皆さん！今年も研修員の受け入れや、ブラジルコーヒー販売などご協力の程お願い致します。

山口県ブラジル親善協会創立50周年 祝辞

山口県知事 村岡 嗣 政



この度、山口県ブラジル親善協会が創立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、その前身であります「山口県日伯親善協会」として 1974 年（昭和 49 年）に創立されて以来、50 年の長きに渡り、ブラジル山口県人会との交流や、県内でのブラジル文化の普及活動等に積極的に取り組まれるなど、本県国際化の推進に多大なる御支援と御協力をいただいているところです。

これもひとえに、橋本会長をはじめ、会員の皆様方の熱意と御尽力の賜物であり、深く敬意と感謝の意を表する次第です。

また、本県では、これまでブラジル山口県人会を通じて、海外技術研修員・県人子弟留学生の受入れや同会の周年行事への出席などにより、山口県とブラジルとの交流を進めてまいりました。

こうした中、貴協会におかれましては、設立当初から、県の取組に対して深い御理解と多大なる御協力をいただいているところです。特に、海外技術研修員等の受入れにおきましては、例年、空港での送迎や研修期間中の文化交流等を通じて、会員の皆様からの温かい御指導と格別な御厚情を賜っているところであり、心よりお礼申し上げます。

山口県ブラジル親善協会の皆様には、この創立 50 周年という意義ある年を契機といたしまして、今後の本県とブラジルとの更なる交流の促進に向けて、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

むすびに、山口県ブラジル親善協会の今後益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

山口県ブラジル親善協会の皆様には、この創立 50 周年という意義ある年を契機といたしまして、今後の本県とブラジルとの更なる交流の促進に向けて、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 山口県国際交流協会 助成事業

創立 50 周年記念アミーゴ特集号に寄せて



ブラジル山口県人会 会長 伊藤紀美子

山口県ブラジル親善協会創立 50 周年 おめでとうございます。

ブラジル サンパウロのブラジル山口県人会より お祝いを申し上げます。

さて、思いおこせば、現在の山口県ブラジル親善協会の前身、日伯親善協会の名前の頃より、私共移住者は貴会より山口県の情報やご援助を頂き、本当に心強く感じていたことが思い出されます。また、山口県ブラジル親善協会と名前が変わってよりは、移住者子弟の留学研修のサポート活動を通じて、期間中きめ細かな日常のお世話を頂き、快適な留学研修生活を送らせて頂いておりますことを心より感謝申し上げます。お陰様で、ブラジル親善協会の皆様にお世話になりました留学生研修員の

B は現在 100 人を超えており、各々の分野で活躍しております。山口県人会の役員となり県人会を支えてくれている研修員もおります。

6 年前に私共は、県人会館裏に 18 部屋を有するアパートを建てました。その折には、親善協会の皆様より多大なご寄付を頂きました。お陰様で、現在、県人会は会員の為健全な県人会運営を行う事が出来ております。事細かく申せば限のないほど私共ブラジル山口県人会はブラジル親善協会の皆様に常日頃より本当に支えて頂いております。会員一同心より感謝申し上げます。

今後とも、親善協会の皆様とのご縁を大切に絆の年輪を積み重ねて参りたいと思います。

山口県ブラジル親善協会創立 50 周年を祝し、また、アミーゴ創立記念特集号の発刊を祝し貴会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

2024 年 6 月吉日



＜マリア きみこ 西田 名島さん＞ 1984 年度
私はマリア きみこ 西田 名島です。71 歳です。
1984 年に栄養士として防府市の山口県立中央病院で研修をさせていただきました。
個人的にも職業的にもとても貴重な 1 年でした。
一生感謝いたします。
帰国後 25 年間サンパウロ大学付属病院で働いて、退職しました。現在ブラジルの山口県人会に通っており、いろいろお世話になって楽しい日々を送っています。
山口県庁、親善協会の皆様、ありがとうございます。

＜川頭 さちえ エリナーネさん＞ 2004 年度
私は 2004 年山口大学医学部に留学した川頭 さちえ エリナーネです。
今は家の近くで子供の為の療法士として働いています。
山口県ブラジル親善協会創立 50 周年おめでとうございます。

＜品川 ナンシ まゆみさん＞ 2014 年度
私は品川 ナンシ まゆみです。
2014 年に山口大学農学部で勉強させていただきました。
赤壁先生の研究室でハーブの成分を研究して、毎日たくさんのお話を学びました。
とてもありがたいです。私は今、シリコン化学製品を売っている会社で粘着ラベルやシールなどを作る会社が私たちのお客さんです。うちの会社はときどきテクニカルサポートもやっています。私も癌から回復しました。ほっとしています。
山口県の皆様、お大事にしてください！ 心から、ありがとうございます！

ブラジル 山口県人会の 元県費留学生、 研修員から メッセージ

＜榎本 レチシア あゆみさん＞ 2011 年度
私は 2011 年の留学生の榎本 レチシア あゆみです。
今は結婚をして男の子が産まれました。
結婚する前から幼稚園で日本語を教えています。
今は仕事と子育てで忙しいです。

＜山下リナ マジヨリーさん＞ 2017 年度
私は 2017 年に UPR と言う物流会社の研修に行きました 山下リナマジヨリーです。現在日本企業の NEC ラタン支店で SCM 管理（サプライチェーン管理）の仕事をしています。昨年はハワイでの山口県人会世界大会の青年部の会に参加できて、とっても嬉しかったです！

＜松崎 サマンタ ひとみさん＞ 2019 年度
私は 2019 年にグラフィックの研修に行きました松崎 サマンタ ひとみです。
今もグラフィックの仕事を続けています。このマスコットは山口県人会の青年部のためにデザインしました。



ブラジル山口県人会青年部
マスコットキャラクター

＜平見 キウエ マリア クリスチーナさん＞ 2015 年度
私は 2015 年に和菓子の研修に行った平見 キウエ マリア クリスチーナです。今は MORI CHAZERIA で働いています。
お茶 HOUSE でお菓子やザンドイッチを作ったり、アロマのお茶を作ったりしているお店の支店長をしています。
朝から晩まで大変です。

「久しぶり！良くいらっしかったです！」母県訪問団が来県 親善協会創立50周年事業として山口県と歓迎会を開催

山口国体以来12年ぶりとなる「ブラジル山口県人会」の母県訪問団35人が10月19日山口宇部空港に到着、親善協会会員や山口県国際課の職員が出迎えました。今回の母県訪問団は山口県人会が創立95周年を記念して編成したもので、コロナ感染のため出発が1年延期されていました。親善協会は会の創立50周年記念事業として歓迎会を開く事にしました。訪問団は4日間バスで山口県内を観光をし、その後京都や東京をまわって帰る行程です。

山口到着の夜開催された歓迎会は親善協会と山口県との共同主催となりました。この年の8月、サンパウロ市で行われた山口県人会の創立95周年式典で歓迎を受けた山口県一行へのお礼の意味もあります。出席者は訪問団の他、山口県、親善協会、ブラジルのサンベルナルド・ド・カンボ市と友好提携を結ぶ周南市の職員など67人が出席しました。

始めに平屋隆之副知事が「山口県人会95周年の式典では温かい歓迎を受け、皆様の山口への熱い想いを知りました。今回の訪問で山口の変わらぬ良さと新しい変化も発見して下さい。」と挨拶しました。続いてブラジル親善協会の福田百合子副会長が「皆さんとこのように一堂に集うことが出来て嬉しく、感無量です。」と挨拶。山口県人会の伊藤紀美子会長は「この様な立派な会を開いていただき心から嬉しいです。訪問団の中には1世はもとより2世3世の人たちも沢山います。山口県のすばらしさを2世3世の人にも見てもらいたいと、この訪問団を企画しました。」とお礼を述べました。乾杯の後、現在山口県に來ている3人の県費研修員の自己紹介もありました。



山口県
村岡知事



山口県ブラジル親善協会
福田副会長



ブラジル山口県人会
伊藤会長



山口県
平屋副知事

歓迎会の途中に村岡副知事も来場、知事は「私は6年前の創立90周年の時に訪問させて頂き、その時の皆様との温かい交流が楽しい思い出として残っています。山口とブラジル山口県人会との繋がりを強くし、大切な関係をより深めていきましょう。」と挨拶、各テーブルを回って懐かしい人達との話や記念撮影に応じていました。



訪問団の中には今、県費研修員として山口県に来ている上野ケリーさんのお祖父さんもいて、孫とお祖父さんの楽しそうな姿や山口に初めて帰ったと言う人たちの姿がありました。

会の最後は山口ふるさと大使で演歌歌手の入山アキ子さん（会員）の指揮で「ふるさと」の歌を皆で歌いました。“・・・忘れがたきふるさと” 久しぶりの故郷を思い皆感慨深げでした。

翌日、母県訪問団は午後県庁に村岡知事を表敬訪問しました。会場には柳居県議会議長、平屋副知事も出席、村岡知事は「これだけ多くの山口にルーツを持つ皆様が帰って来られ、心から歓迎いたします。」と改めて歓迎の言葉を述べ、山口県人会の伊藤会長は「県の研修員の受け入れで、県人会の若者が育ち交流活動が広がっています。」と県の研修生支援に感謝の言葉を述べました。初めて山口県を訪ねた男性は、知事の質問に答えて「母が、お父さんが、宇部から出ました。ここに来て良い場所です。秋吉台は良かったです。食事は全部美味しいです。」と答えていました。



3日後、親善協会は訪問団を入山アキ子歌謡ショーへ招待しました。入山さんは山口国体の時の歓迎会や山口県人会90周年式典にも呼ばれ、日本の懐かしい歌や演歌が日系人に感動を与えています。ブラジルのファンとは今も交流が続いています。

母県訪問団の歓迎会と入山アキ子歌謡ショー、皆さんふるさとの空気と思い出を胸に一杯に詰めて帰られた様です。



「山口県ブラジル親善協会」 創立 50 周年の歩み

山口県ブラジル親善協会は1974年（昭和49年）「山口県日伯親善協会」として創立されました。山口県からブラジルに移住した人たちの会「在伯山口県人会」現在の「ブラジル山口県人会」と交流を深め、移住者の支援や留守家族との連絡、留学生のあっせんなどを行おうと関連の県議会議員や県職員が中心となり発足しました。1908年（明治41年）第一回の移民船「笠戸丸」がブラジル、サントス港に着岸した日に合わせて、創立総会を6月18日に山口市の葉香亭で開いています。

その後親善協会は「ブラジル山口県人会」の5年、10年ごとの記念式典に民間の参加者を集めた訪問団を編成して参加、また山口県人会からも県庁舎の落成、きらら博、山口国体などの行事に大型母県訪問団が来県して交流を深めています。山口県が毎年受け入れるブラジルからの県費研修員・留学生についても親善協会は山口を知り、日本文化を体験する支援を続けています。ブラジルの日系社会は今200万人になったと言われ、研修生たちも3世4世の時代になりました。創立50周年を迎えブラジルとの親善交流が今後も新たな形で永く続く事を願っています。



季刊誌 創刊号（1974年）

年表

ブラジル日本人移民の歴史と山口県人

(山口県ブラジル親善協会の活動50年)

1888 年
(明治 21 年)

- 奴隷が解放され、労働力確保のため移民誘致を行う。

1895 年
(明治 28 年)

- 日伯修好通商航海条約締結 国交樹立

1908 年
(明治 41 年)

- 外務省許可の移民開始 第一回移民船「笠戸丸」が 4 月 28 日神戸港を出港、南アフリカ経由で、6 月 18 日サンパウロ州のサントス港に到着

「笠戸丸」に乗船した移民総数 781 人、山口県出身者は 9 家族 30 人。



第一回移民船に使われた「笠戸丸」

写真提供：(株)商船三井



「南米ブラジル植民者笠戸丸」にて出発の光景

国立国会図書館電子展示「ブラジル移民の 100 年」から

サントスに到着後はコーヒー農園などに配置されたが生活は厳しく移民の夢を砕くものだった。耕地を去り、街で他の職業についた人が多い。



コーヒー採取状況

国立国会図書館電子展示「ブラジル移民の 100 年」

1914 年
(大正 3 年)

- サンパウロ州政府は、経済の低迷と日本移民の定着率の悪さなどを理由に移民誘入契約を解除、移民が一時中断

1917 年
(大正 6 年)

- 日本から移民送り出しを再開、第一次大戦でヨーロッパからの移民が途絶えたことが要因

1922 年
(大正 11 年)

- 国行卯一・善本元一・深町信一の 3 人で山口県人会を組織する 県出身者は 10 家族余り

1923 年
(大正 12 年)

- パラー州知事が在ブラジル日本大使にアマゾン地域の日本人移民による開発を要請

1924 年
(大正 13 年)

内務省の渡航費補助の開始により、ブラジルへの渡航者数は急増、1930 年(昭和 5 年)頃には年に 1 万 2 千人から 2 万 7 千人の農業移民が渡航



「事業の前に原始林はこうして伐採す」

国立国会図書館電子展示「ブラジル移民の 100 年」

1926 年
(昭和元年)

- 日本側から全伯的な防長人会を組織するように頼まれ「伯国防長人会」が発足、会員約 40 家族



邦人最古の植民地サンパウロ州レジストロに支部も設立

(写真 1927 年)

1927 年
(昭和 2 年)

- この年を「伯国防長人会」、現在のブラジル山口県人会の創立の年としている。各県の海外移住組合が次々と設立された。組合から資金を借りて土地を購入し入植する人も増えた。

1929 年
(昭和 4 年)

- 第 1 回アマゾン地区移住開始 入植地ではカカオ、野菜栽培をしたが成功せずマラリアも蔓延、退耕者が増えた

南米拓殖会社 移民募集ポスター

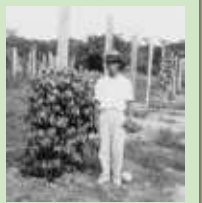
国立国会図書館電子展示「ブラジル移民の 100 年」

1933 年
(昭和 8 年)

南洋種コショウ苗(ピメンタ) 20 本を、移民監督官白井牧之助がシンガポールよりアカラ植民地へ搬入、試験場で枯れずに残った 2 本から苗木を取り挿木栽培で増殖した。

アサイザール試験場で育ったコショウの苗

写真 JICA 横浜海外移住資料館

1937 年
(昭和 12 年)

- 「防長人会」の名称を「ブラジル山口県人会」に変更

日本人によるジュート(麻)栽培が成功、コーヒーなど農産物輸出用の袋に使うジュートや黒コショウ、野菜などの栽培成功は日本移民の功績として賞賛されている。



ジュート(麻) コーヒー豆袋

1941 年
(昭和 16 年)

- 8 月に入港した「ぶえのすあいれす丸」をもって日本からの戦前移民は終わる。
戦前の山口県人移住者 5,656 人 (ニッケイ新聞)
- 12 月大太平洋戦争が始まる。

1942 年
(昭和 17 年)

- 日本は敵性国となり国交を断絶、在留邦人の暗黒の時代に入る、母国語の禁止、ラジオ、書籍などを没収、邦人の収容、沿岸部住民の強制退去などが行われた

1945 年
(昭和 20 年)

- 日本のポツダム宣言受諾、敗戦

「勝ち組」と「負け組」
戦争中の日本の情報発信やポルトガル語を良く解さない事などの情報不足から、日系社会は敗戦を信じない「勝ち組」戦勝信念派と敗戦を受け入れる「負け組」敗戦認識派とに分かれて対立。指導者を狙った殺人事件も起き、日系社会が負った傷は深かった。

1951 年
(昭和 26 年)

- 日本との国交が回復

1952 年
(昭和 27 年)

- 戦後第 1 回ブラジル移民を乗せた「さんとす丸」が神戸を出航、黒コショウの国際相場が高騰し 1953 年から翌年にかけてアマゾン地域の生産がピークに、黒ダイヤとも呼ばれ、コショウ長者も出現した

1954 年
(昭和 29 年)

- 小沢太郎山口県知事や総領事館からの要請もあり、大戦中 13 年の空白を埋める「防長県人会」を発足させる。

1955 年
(昭和 30 年)

- サンパウロ日本文化協会(文協)が発足 山口県労働民生部長 岸本孝二氏が訪伯

1956 年
(昭和 31 年)

山口県社会課長久幸虎雄氏が訪伯、翌年まで 6 州の入植地を視察する。
久幸虎雄氏は片道 45 日の移民船に同乗して入植地を視察し、視察記「南米渡航通信」を残している。



移民船では船内学校や剣道試合、赤道まつりなどが行われた。



山口県人の耕作地を訪ねる久幸虎雄氏(右)

1958年
(昭和33年)

- 日本移民五十年祭を挙行、日本文化センター建設へ三笠宮ご夫妻、岸信介首相、田中龍夫代議士、小沢太郎山口県知事が訪伯

1960年
(昭和35年)

- 名称を「在伯山口県人会」へ変更し国へ届け出る
1960年代後半 コシヨウ栽培は病害に見舞われる

1967年
(昭和42年)

- 在伯山口県人会創立40周年記念式典を開催
和田克己副知事、吉井公人県会議長らが出席

1970年
(昭和45年)

- 山口県が在伯山口県人子弟留学生の受け入れ事業を開始
山口県人会が毎年1名の県費留学生を派遣、その後留学・研修生が2人から3人に増える

1971年
(昭和46年)

- 下関市とサントス市が友好姉妹都市提携

1972年
(昭和47年)

- 山口県と県人会が現在の山口県人会館を購入、事務所を移転
在伯山口県人会創立45周年記念式典を開催

山口県人会会館はブラジルの山口県出身者が集う交流拠点。ここでは山口の最新情報を知り、県人子弟への教育支援、慈善事業などを行う。会員は500家族、国内に19支部がある。県人会は1970年から山口県に130人余りの県費留学生、研修員を送り出す。



ブラジル山口県人会会館

1973年
(昭和48年)

- 日本人移民数の急減からブラジルへの移民船は廃止
戦後の山口県人移住者は2,123人(ニッケイ新聞)



最後の移民船「にっぽん丸」(旧ぶえのすあいれす丸)(横浜出港)

国立国会図書館電子展示「ブラジル移民の100年」

1974年
(昭和49年)

- 「山口県日伯親善協会」現在の「山口県ブラジル親善協会」を創立
ブラジルと日本、またブラジルの山口県人と母国の山口県人の友好交流を促進する目的



山口県日伯親善協会の季刊誌創刊号

創立総会は第一回ブラジル移住者を乗せた笠戸丸がサントス港に到着した6月18日に合わせて山口市の葉香亭で開催された。会員は33人、初代会長は名和田豊県議・医師。設立趣意書には、山口県人会が取り組む県人相互の親睦や

移住者の援護、留学生の斡旋などを支援し親善を促進すると書かれている。

- 徳山市とサンベルナルド・ド・カンボ市が友好姉妹都市提携

1976年
(昭和51年)

- 井川克己下関市長にブラジル民間最高勲章のコメンダドール勲章が贈られる。

1977年
(昭和52年)

- 在伯山口県人会創立50周年記念式典を開催
名和田豊日伯親善協会会長を団長とする平井龍県知事ら64人が訪問



在伯山口県人会創立50周年記念式典 サンパウロ市

ブラジル山口県人の移住史「在伯山口県人 移り来て五十年」を刊行

1981年
(昭和56年)

- サンベルナルド・ド・カンボ市長他26人が来県 徳山市などを訪問
- サンパウロ州少年サッカーチーム・役員45人が来県、県内の中学、一般人選抜と親善交流試合が行われた

1982年
(昭和57年)

- 在伯山口県人会の母県訪問団34人が来県
- 在伯山口県人会創立55周年記念式典を開催
山口県からの訪問団23人が参加

1984年
(昭和59年)

- 在伯山口県人会から新山口県庁舎落成慶祝訪問団16人が来県、親善協会も歓迎会を開く
この頃から日本への出稼ぎ就労が始まる

1985年
(昭和60年)

- 安倍晋太郎外相がブラジルを訪問
歓迎会には県人会の役員ら120人出席

1987年
(昭和62年)

- 在伯山口県人会創立60周年記念式典を開催
山口県、友好市、山口県日伯親善協会関係者ら訪団44人が参加

1988年
(昭和63年)

- ブラジル日本移民80年祭をサンパウロ市で開催
t y s テレビ山口が80年祭を取材、TBS「報道特集」で放送



サンパウロ市 バカエンブー競技場

笠戸丸移民の中川トミさんら日系人4万人が参加した

1990年
(平成2年)

- 日本の出入国管理法が改正 日系人三世と配偶者に定住資格が与えられる
- 岩国市とジュンディアイ市が友好姉妹都市提携
- 「ふるさと創生事業」の二世招待者6人の県内視察や表敬訪問に協力

1992年
(平成4年)

- 在伯山口県人会創立65周年記念式典を開催 山口県からの訪問団12人

1995年
(平成7年)

- 日本とブラジルで日伯修好100周年記念の式典や行事が行われる
- 海峡メッセ下関で「日本ブラジル修好100周年貿易フェア IN 下関」開催



日本とブラジルで発売された修好100周年記念切手

1997 年
(平成 9 年)

- 在伯山口県人会創立 70 周年記念式典を開催
山口県、友好市、山口県日伯親善協会関係者から訪問団
47 人が参加、山口ケーブルテレビが取材

1998 年
(平成 10 年)

- 県人会の名称を「ブラジル山口県文化協会」に変更、
「るりがくえん」の園生、保護者など 18 人、山口大学
農学部丸本教授他学生 8 人が訪伯、兄弟施設「ブラ
ジルこどものその」を訪ねる。

コショウなどの病害に対応するため自然の植生に
沿った作物の組み合わせ栽培、アグロフォレスト
リー（森林農業）が日系人の間で進められている。



自然の植生を生かした農
業アグロフォレストリー
コショウはマメ科の植物
の生木を支柱にしている
写真提供：永武ひかる /
JICA

2001 年
(平成 13 年)

- 「山口きらら博」開催
在伯山口県人会の「きらら博」見学母県訪問団 48 人
が来県

2002 年
(平成 14 年)

- ブラジル山口県文化協会創立 75 周年式典開催
山口県、友好市、山口県日伯親善協会関係者ら訪問団
38 人

山口市の福祉施設「るりがくえん」創設者でブラジ
ルの障害者福祉に貢献した村上修好園長にサンパウ
ロ州知事からバンディランティス勲章が授与される。



バンディランティス勲
章の授与 サンパウロ文
協ビル

2005 年
(平成 17 年)

- 日本のブラジル人国籍の外国人登録者数は 30 万人を
超え、戦前戦後に日本からブラジルに移住した 26 万
人を上回った。

2006 年
(平成 18 年)

- ブラジル山口県文化協会を「ブラジル山口県人会」に
名義変更

2007 年
(平成 19 年)

- ブラジル山口県人会創立 80 周年式典を開催
訪問団は二井関成県知事や友好市市長、山口県日伯親
善協会、民間など 80 人、第二回在外山口県人会世界
大会をサンパウロ市内で開催



ブラジル山口県人
会創立 80 周年式
典 サンパウロ市
山口県とブラジル
双方から 600 人
が参加

2008 年
(平成 20 年)

- 山口県日伯親善協会を「山口県ブラジル親善協会」に
改名
- 「ブラジル日本人移住 100 周年記念式典」がサンパウ
ロ市などで開催される。

皇太子殿下が出席、山口県からは県関係者や山口県ブ
ラジル親善協会の石崎幸亮会長、下関市長らが出席、
ブラジルの日系社会は 150 万人になったと言われる。



ブラジル日本人移
住 100 周年記念
式典サンパウロ市

山口県ブラジル親善協会は「日本移民百周年記念写
真展」を山口県内 5 ヵ所で実施、山口市では小山け
いとらの「ボサノバ&サンバコンサート」を開催した。



山口市民会館小ホール 研修員も参加

2011 年
(平成 23 年)

- 「おいでませ山口国体」開催ブラジル山口県人会の母
県訪問団 42 人が来県、開会式などを観覧、県庁で第
三回在外山口県人会世界大会を開催



ブラジル山口県人会の母県
訪問団 山口国体開会式へ



母県訪問団の歓迎会
山口市内のホテル

2012 年
(平成 24 年)

- ブラジル山口県人会創立 85 周年式典を開催
山口県の山本観光局長、親善協会会長代理の田村伊正
理事ら計 4 人が訪問

2014 年
(平成 26 年)

- 元県費留学生の千代（せんだい）しのぶさんがホテル
の飼育法を学ぶため来県、山口市の「ふるさと伝承総
合センター」でホテル飼育を勉強
- 中南米訪問中の安倍晋三首相がブラジル山口県人会
会館を訪問



父・安倍晋三首相が贈った
レザーカラオを見る安倍首相

2015 年
(平成 27 年)

- 山口県ブラジル親善協会の主催で、駐日ブラジル大使
の講演会
「リオ 2016 〜オリンピック、パラリンピック〜」を開催



アンドレ コヘアー・ド・ラーゴ 駐日大使の講演 山口県庁県政資料館

2016 年
(平成 28 年)

- リオ五輪・パラリンピック開催
ブラジル山口県人会は山口県出身選手の応援にバスを
チャーターし駆けつける
- 山口県からのマスコミ、訪問者のサポートをする
- ブラジル山口県人会の伊藤事務局長が来年の山口県人
会創立 90 周年式典へ案内状を村岡知事、岡山口大学
長などに手渡す



- 親善協会が元県職員久幸虎雄氏の
ブラジル移住に同行した手記「南
米渡航通信」の冊子を作製



2017年
(平成29年)

- 周防大島町の日本ハワイ移民資料館にブラジル展示室を開設
「ブラジル日本人移民と山口県人」の歴史年表を作成、移民契約書、大正時代のパスポート、「南米渡航通信」などの資料26点を展示



ブラジルコーナーの展示

「入山アキ子チャリティコンサート〜ふるさとの歌をブラジルへ〜」を山口市民会館で開催、ブラジル山口県人会館の改修工事費支援として親善協会と講演会の実行委員会が1000人近い聴衆を集める



- ブラジル山口県人会創立90周年式典開催（8月サンパウロ市）
式典には村岡知事、下関市代表、岡山口大学長、橋本親善協会長を始めとする44人の民間訪問団も出席、山口県人会館の改修竣工式の後併設された新宿舎を見学、親善協会は改修・増築費の募金を集め1,300万円を寄付した



90周年式典



改修した山口県人会館と新宿舎
(左の建物)

- 山口県人会90周年式典訪問団の「打ち上げ報告会」を開催
参加者35人、県人会の要田会長や伊藤事務局長もブラジルから出席、「訪問団の記録」DVDを製作し配布

- 親善協会主催でブラジル山口県人会の伊藤紀美子新会長就任を祝う昼食会を開く

- 日本総務省事業で来県した山口県人子弟など10人の研修生が1週間山口県を訪問、山口の歴史・文化を学ぶ、親善協会も一行をサポート、記録DVDを製作



- 親善協会創立45周年記念講演会で野口泰在サンパウロ日本国総領事が講演演題「ブラジルと日系人社会の今」、野口総領事は山口市出身



2020年
(令和2年)

- コロナ感染のため中南米からの県費研修員の受け入れが中止される
海外の山口県人会の代表が出席する「在外山口県人会世界大会」も延期

2021年
(令和3年)

- 東京オリンピックに出場するブラジル代表女子ラグビーチームを激励
長門市で五輪事前キャンプ中のチームとガラスを隔てて交流、激励



- コロナ感染拡大で1年延期された東京オリンピックが開催される（7月）
- オンラインで「第5回在外山口県人会世界大会」を開催、メイン会場の山口県庁側にはブラジル親善協会など友好団体の代表が出席



世界大会 Zoom のメイン会場は県庁正庁会議室

2022年
(令和4年)

- 中南米からの県費研修員の受け入れを再開、ブラジルから研修員2人が到着
- 親善協会が福田百合子副会長の「私とブラジル」の講演会を開催（県庁旧議会議棟）

2023年
(令和5年)

- ハワイ州ホノルルで「第6回在外山口県人会世界大会」が開催、親善協会から橋本由美子理事や会員（外務大臣夫人）の林裕子さんも参加



ブラジル山口県人会から伊藤会長も出席、青年部の2人が県人会の活動報告をする

- ブラジル山口県人会の母県訪問団35人が山口に到着。

（山口国体以来12年ぶり）親善協会は創立50周年事業として歓迎する。



山口宇部空港に出迎え、親善協会と山口県が共同主催で訪問団の歓迎会を開いた。湯田温泉のホテルで開かれた歓迎会には訪問団、親善協会員、山口県、周南市、研修員など合計67人が出席、最後に皆で「ふるさと」の歌を歌う。

3日後、訪問団を「入山アキ子ディナーショー」に招待する。

2024年
(令和6年)

- ブラジルから2人の県費研修員が到着
1970年からのブラジルの県費留学生・研修員の受け入れは133人、その他に政府、自治体、団体からの留学生も来県しており、親善協会の支援が行われた
- 親善協会創立50周年、会報「アミーゴ」に記念事業や、会の活動史を加えた50周年号を刊行

参考・引用文献

国立国会図書館 電子展示会「ブラジル移民の100年」
ブラジル山口県人会創立50年、70年、80周年記念誌
季刊「日伯親善」山口県日伯親善協会発行

在サンパウロ日本国総領事館 HP「日系社会」
JICA 横浜海外移住資料館 HP「アマゾンに渡った日本人の軌跡」
ブラジル ニッケイ新聞（2007年8月）

山口県ブラジル親善協会 創立 50 周年寄稿文

絆、さらに実りのあるものに

周南市長 藤井律子



山口県ブラジル親善協会が、創立 50 周年を迎えられることに、心よりお祝い申し上げます。

100 年以上前に日本からブラジルに渡られた方が「国際協力」の先駆者として、移住の礎を築き、貴会がその思いを引き継ぎ、半世紀という長きにわたり交流を紡いでこられました。

これまでブラジルから 130 名あまりの県費研修生を、山口県やブラジル県人会と連携し、サポートしてこられました。ブラジルの山口県人と山口県との友好親善のため、多くの方々の手によって深められた絆は、何ものにも代えがたい財産です。

周南市も、旧徳山市時代の 1974 年 4 月 23 日 ブラジルのサンベルナルド・ド・カンポ市と姉妹都市提携を締結し、同じく今年 50 周年を迎えました。昨年度は、サンベルナルド・ド・カンポ市出身の県費研修生が来県され、周南市を紹介させていただく事ができました。

この絆が次世代にも引き継がれ、新たな 50 年がさらに実りの多いものとなる事を祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。



徳山動物園のイパーの花
カンポ市の種から育てた

山口県ブラジル親善協会 50 周年に寄せて

山口大学教授 林裕子



山口県ブラジル親善協会の 50 周年を会員の一人として心からお祝い申し上げます。当会は、山口県出身の日系ブラジル人と祖先の故郷の山口県を文化、歴史、そして人々に交流を通じて結んできた貴重な存在です。この節目の年に、会のさらなる結束と友情を願い、共に歩んできた日々を振り返りたいと思います。

当会は、毎年山口県に県費技術研修員として訪れる日系ブラジル人をサポートしてきました。ブラジル側ではブラジル山口県人会の歴代会長、現伊藤紀美子会長をはじめとする役員や会員、そして若々溢れる青年部の皆様のご努力と連携のおかげです。日本側では山口県庁や受け入れ企業のご協力なければ、研修は成り立ちません。研修員はサービス業、製造業など様々な分野で研修を受け日本を好きになってくれます。2023 年にハワイで開催された第 6 回在外山口県人会ではブラジル山口県人会の青年部の二人が当会との活発な交流活動報告を立派に発表されました。そして、節目の

大きな出来事は、当会とブラジル山口県人会のリーダーシップで山口県からも多くの企業や個人のご寄付を募り、寮を設立したことです。ブラジル山口県人が大都市サンパウロで住まいを確保し、学び、働くための基点と同時に県人会の活動の原資となりました。

このように、会員同士の交流やイベントなど、多くの思い出が詰まった 50 年間でした。そして、山口県ブラジル親善協会のさらなる未来に期待を寄せつつ、感謝の気持ちを込めてお祝い申し上げます。



ナマケモノをペットにしている
アマゾンの少女と林さん

歌でつながるブラジルと私

山口ふるさと大使・演歌歌手 入山アキ子



イグアスの滝と虹

初のブラジル訪問は 2017 年 8 月。ブラジル山口県人会 90 周年記念式典後のアトラクションで歌をお届けすることが私の役目。ご縁の始まりは 2011 年山口国体の年、ブラジルの皆様の歓迎会で唄わせていただいたことがきっかけでした。山口県ブラジル親善協会橋本会長、かなめ会先輩の由美子夫人の発案で歌謡ショー開催したことでご縁が繋がりました。懐かしい歌に手拍子、掛け声もあがり大盛況、歌い手として駆け出しの私には大きな喜びを感じる経験となりました。そして 2017 年、村岡県知事、福田百合子先生ら訪問団の皆様と共にブラジルへ。訪問前には協会の皆様とブラジルの県人会館修繕費を捻出するためのチャリティーコンサートも開催、多くの皆様のご協力がありブラジル訪問が叶いました。ワクワクしながら機内で着物に着替えサンパウロ空港へ降り立つと横断幕をもつての歓迎！滞在中はイグアスの滝、アマゾンも観光でき素敵な思い出ができました。遠いブラジル、皆様とは会えずともネットで交流を続けています。思えば大変だったコロナ禍も励ましあいながら様々なことを乗り越えてきました。2023 年秋、ブラジルの皆様が再び来日、ディナーショーを全員で観覧下さいました！ブラジルと私、歌を通して結ばれたありがたいご縁は宝です。世代、趣味、ジャンル、国境を超えて、日本の文化、伝統を愛し、継承くださること、感謝の気持ちでいっぱいです。

今の私の願いは皆様が幸せにお過ごしいただくこと、そして元気に再会できますこと。では、また、ごきげんよう。



山口県人会 90 周年式典で

次世代の交流へ向けて

山口大学大学院創成科学研究科教授 赤壁善彦



平成26年に、サンパウロ大学から県費留学生 品川（旧姓：奥田）ナンシまゆみさんを受け入れたことを縁に、山口県ブラジル親善協会に入会し、平成29年8月には、ブラジルで開催の90周年式典へ妻と参加しました。初め

ての渡伯でしたが、現地の皆様の篤い歓迎を受け、非常に貴重な経験でした。滞在中は留学生との再会を果たし、市内を観光案内してもらい、彼女の自宅に宿泊し、心温まるおもてなしを受け



赤壁研究室 まゆみさん 左列3番目

ました。また、彼女が在籍中のサンパウロ大学の研究室の教員や関連研究者を紹介され、交流もできました。これを機に、共同研究につながればと思います。ブラジルからの留学生の受け入れや日本人学生の派遣を提案しました。その後、妻は県費ブラジル研修員の来日中のお世話や親善協会のお手伝いをしています。私も可能な限り、研修員の来日中のイベントへ参加をしています。このような交流を通じて感じるのは、ブラジルにおいても先人たちの精神は今も脈々と受け継がれていることです。世代は変わっていき、記憶は薄れ、多様性を生み出します。しかし、同じ日本のルーツを持つ者同士、常に寛容な心で認め合うことが必要と感じます。今後は、次世代の交流の一助になればと考えています。



2017年サンパウロ市
まゆみさん夫妻と再会

活動・行事

☆山口市「大内まつり」にコーヒー店を出店(2023年5月23日)



☆お婆ちゃんの故郷を探す日系女性のお手伝い。長門市の家には同じ家族の写りがあった！（6月5日）



☆ハワイ開催の「在外山口県人会世界大会」に出席、ブラジル山口県人会は青年部が活動報告(7月29日)



☆ブラジルから3人の県費研修員が到着、手作り横断幕で出迎え(8月6日)



☆山口市の「七夕ちょうちん祭り」を浴衣姿で散策(8月7日)



☆令和5年度 親善協会総会を開催(9月2日)



☆研修員3人の歓迎会、受入れ企業の代表も出席、ハワイの山口県人会世界大会の報告も行われた(9月2日)



☆12年ぶり「ブラジル山口県人会」の母県訪問団35人が来県、マスコミ各社が報道(10月19日)



☆研修生が茶道体験、五重塔の屋根を作る檜皮葺(ひわだぶき)技法を見学、(11月18日)



☆山口市で「おおうち産業フェア」に出店、コーヒーとポンデケージョが好評(11月26日)



☆♪引いて楽しい あみだくじ♪何が当たるか?「忘年・X'mas会」(12月19日)



☆「ころんだけど楽しかった！」広島で初めてのスキー体験(2024年1月14日)



☆「もうお別れ、夢を追って将来は独立も」、橋本会長も出席して送別会(2月3日)



☆県国際課の研修員送別会に出席、研修先の代表にお礼(2月9日)



☆「また会いましょう！」研修員が帰国、半年間の支援活動動画を贈る(2月14日)



ブラジルから令和6年度県費研修員2人が到着

中南米からの県費研修員が8月6日山口宇部空港に到着、ブラジルの研修員は2人で、親善協会も出迎えに行きました。これから半年間、山口市内で萩焼や日本文化の勉強をします。親善協会は日本文化体験などのサポートをします。



左) 辻 エミリー ゆかりさん 右) 橋本 沖島 ゆみ ラリッサさん



■ ブラジル山口県人会（会館事務所）

所在地 サンパウロ市リベルダーデ区ピラピチンギ街 72 番
 Associação Assistencial e Cultural Yamaguchi-Ken do Brazil
 KIMIKO ITO (伊藤紀美子) Presidente
 Rua, Pirapitingui, 72-Liberdade CEP 01508-020 -São Paulo-SP
 TEL: (11) 3208-6074
 E-mail yamaguchi_kenjinkai_br@hotmail.com
 (会員約 500 家族 ブラジル国内に 19 支部を置く)



山口県ブラジル親善協会

連絡先 〒753-0252 山口市大内中央1丁目5-34 (山中方)

事務局長 山中清治 電話 083-927-5137 E-mail letitbe@c-able.ne.jp (山中)

資料展示 日本ハワイ移民資料館 ブラジル移民コーナー

〒742-2103 山口県 大島郡周防大島町西屋代 2144 電話 0820-74-4082

山口県ブラジル 親善協会役員 (令和6年度)

会 長	橋本 憲二				
副会長	福田百合子	安田 武勝			
理 事	小林 真人	田村 伊正	徳光 英夫[会計]	橋本由美子	村田 弘子
	弥源治 寿	岡本記美代	赤壁千佳子	山中 清治[事務局]	
監 事	清水 良子	徳光 智子			

編集後記

親善協会創立50周年記念の「アミーゴ」特集号は、村岡知事をはじめ周南市、ブラジル山口県人会、元留学・研修生、会員など国際交流に係る沢山の方々のご寄稿をいただき完成する事が出来ました。皆様方の平素からのご支援とご協力に改めて感謝を申し上げます。

当会は去年、創立50周年記念事業としてブラジル山口県人会の母県訪問団(35人)の歓迎会と入山アキ子ショーへの招待を行いました。今年は特に式典などは行わず、ブラジル山口県人の歴史と会の活動年表を加えたこの特集号を出すことになりました。

親善協会は50周年という長い歴史を担いましたが、会員の高齢化や3世4世と世代が進むブラジル日系の人たちとの新しい交流など、取り組むべき課題を抱えています。これからも新たな想いで活動を続けたいと思います。

山中清治



初めて咲いたイペーの花